

WACCA

MONTHLY REPORT

2022.3 VOL 4

中3全員合格しました！

前月に引き続き、WACCA塾では中学3年生が高校受験に挑んでいました。

のんびりモードの小学生たちと反対に、中3受験生の緊張感はピークを迎え、「緊張する！」と、何度もため息をつきながら最後の踏ん張りを見せてくれました。

受験当日の朝には、WACCA塾スタッフが激励のメッセージを送信。受験生からはすぐに返信が来たようです。

合格発表の3月18日、午前10時には発表されるということでソワソワしながら待っていましたが、中3生からはなかなか連絡が来ません。14時頃たまりかねて「教えてくれないの？」とLINEすると、「会うまで内緒です！」との返信が……

その日は大荒れの天気で、小・中学生ともに欠席が多く、その中ボランティアさんたちが中3生の登場を首を長くして待っていました。

18時過ぎ、勢いよく扉が開き、ようやく中3生が合格報告とともにやってきました！ボランティアさんたちから「おめでとう！」と拍手で迎えられて、ちょっと照れながらも嬉しそうでした。これで今年の3年生6名全員の高校進学が決まりました。

あそび基地×ふらっとシンママカフェ

4月より新しくスタートする事業「WACCA子ども基地」。その中の「あそび基地」と、同時に行う「ふらっとシンママカフェ」について詳細が決まりました。

「あそび基地」と「ふらっとシンママカフェ」は、毎月第4土曜日に開催します。

あそび基地では、イベントではなく、子どもたちに自由に遊んでもらうことを通して、一人一人を見守ったり話したりできる場をつくりたいと考えています。子どもたちが遊びこむ中でどのように交流し変化していくのか、未知数ではありますが、とても楽しみです。

また、子どもたちが「あそび基地」にいる間、お母さん向けには「ふらっとシンママカフェ」をオープン。

お母さん同士で「あるある話」をしたり、ただ一人でぼーっとゆっくりしたりなど、自由に大人の時間を過ごせるスペースになればと思っています。

こうやって、親と子が別々に参加できる場を土曜日につくるのは久しぶりです。

きっかけは、ある一人のお母さんでした。

ある土曜日、スタッフがWACCAで仕事をしている時にお子さんを連れてシングルマザーの方が来られました。「たまたま子どもを連れて近くまで来たらWACCAが開いていたので覗いてみました」と……。話をしていくうちに「他のママたちはこういう時どうしているのか話を聞いてみたい」と話されました。

平日、なかなかWACCAに来られないシングルマザーの方にとって、土曜日に子どもと一緒にいける場所があることはコロナ禍の今だからこそ、とても重要だと感じています。

去年は、「親と子でずっと家の中にいるので煮詰まってしまった」という声もよく聞きました。今回の「あそび基地」と「ふらっとシンママカフェ」が、そんなシングルマザーや子どもたちにとっても何かと繋がるきっかけになれば嬉しいです。

メダカの学校、その後…

ワッカにメダカがやってきました。

このメダカたちは一組の夫婦から生まれた子どもたちです。去年の夏の終わり頃のこと。水草に産み付けられたガラスのビーズのような卵の中に、目があらわれ、尻尾が形作られ、ある日心臓が動き出して、血の通う小さな命になりました。そして、次々に生まれるたくさんの兄弟たちと一緒に発泡スチロールのケースで育ちました。



みんな生まれてすぐは頼りない姿で水底に横たわっていました。何日かは、餌は食べずお腹にある袋から栄養をとりました。泳いで餌を探すようになって、体は絹糸のように細く透き通っていました。日光を反射しながらゆらめく水をのぞくと、メダカたちの体も光に溶けて消えてしまいそうに見えました。

そんなメダカたちも、餌を見つけるのがうまくなりました。体の色も濃くなり、もう見失ってしまうことはなくなりました。ツイ、ツイ、と戯れるように動き回り、ときには追いかけてこもして遊んでいるようでした。

やがて、一匹一匹の個性がわかるようになりました。強い子弱い子細い子太い子。強気な子、控えめな子。競争も始まって、強い子はもっと強く太く、弱い子はもっと細くなりました。

そして冬を迎えると皆、あまり餌を食べずに水槽の底の方で過ごすようになりました。ヒーターで部屋があたたまる時には水面に現れ、太陽の強い光を恋しがっているようでした。

今、春が来て、こうして育った兄弟たちがWACCAの水槽に引っ越してくるようになりました。

メダカと一緒に移り住んだのは体が透き通ったミナミヌマエビです。エビも、野生の親から生まれた子どもたちで、小さな手足をツマツマとせわしなく動かし続けながら、メダカたちの食べ残しをきれいにしてくれる働き者です。

水槽には生き物だけでなく、メダカの苦手な水の流れを和らげ、隠れ家にもなってくれる水草があります。赤く目を引くのはオタラ・インディカ、ルドヴィジア。緑の糸の束のような数本はガボンバ、アンブリア、ミリオフィラム。丈の低いパールグラス。どれも、名前はたいそうですが育てやすく親しみやすい水草です。これから夏にかけて大きく育ち、水槽の姿も少しずつ変わっていくかもしれません。

さて、小さなメダカたちの両親はどこからやってきたでしょう。ある川の河口あたりからです。二匹は、川辺の草の茂みの影に隠れるように暮らしていました。今、その場所にはブルドーザーが停まり、草の茂みのあたりはもう砂利で埋められています。

ではこのエビの先祖たちはどこから来たでしょう。同じ川の支流で、公園の中を流れる細い小川からです。公園の開発が進み、ザリガニなどの外来種が増え、この川の様子も少しずつ変わっているようです。

生き物との出会いは一期一会。同じ季節がやってきても、同じ場所で同じ生き物とまた会えるとは限らないようです。

だからこそ、ご縁があってここにやってきたメダカたちやエビたちが水槽の中で重ねていく時間が、WACCAの皆さんの思い出に良い形で残ってくれますように。

執筆・森の人